

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608982
法人名	有限会社 白岩の郷
事業所名	グループホーム 花みづき
所在地	仙北市角館町白岩下西野103番地
自己評価作成日	平成 23年 10月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター
所在地	秋田市将軍野桂町5番5号
訪問調査日	平成23年11月9日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花みづきは、自然に囲まれ利用者の方と職員が一つの家族の様にゆったりと安心して暮らせる環境作り  
に、努めております。  
全室にスプリンクラーを設置、年2回の避難訓練、夏祭りその他の行事等を通して、地域の方々との交流を  
図っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の辺りは山林にかこまれ、利用者は豊かな四季の恩恵に与かっている。2ユニットから成る明るく家庭的な造りで、小学校  
も近くにあり、交流も盛んに行われている。又地域交流も盛んである。  
開設時からの理念「自立と相生」を、全職員、利用者、外来者も一目で解るように、目につき易い玄関に大字で掲げている。 職員  
の質の向上のために一人ひとりが新しい気づきをもって利用者のニーズに添った支援に努め、年間計画に基いた研修、他事業所と  
の相互交流を図り、全職員を正採用して意欲向上に大きな効果をあげている。 家族との連絡手段として「花みづき通信」「友の会だ  
より」「連絡帳」、その他電話等で、常に連絡を密にしている。 設備の面では、平成23年3月待望のスプリンクラーが設置され、利用  
者はもとより家族職員一同安心したことは注目に値する。更に平成23年10月から「認知症デイサービス」が開設され地域の福祉拠  
点としての役割を担って大いに期待を集めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	1ユニット(1号館)	2ユニット(2合館)
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	1ユニット(1号館)		2ユニット(2合館)	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立と相生」という事業所の理念があり、ユニットごとの全体会議や2ユニット合わせたの管理者会議で、共有や意見交換をして、実践につながるよう努めている。	基本理念「自立と相生」に基づき職員が把握すべき6項目とその細目が明示されており、全体会議等で繰り返し確認されている。		
			「自立と相生」を基本理念に揚げ手書きの理念を玄関に掲示し、毎月の職員会議の中で共有しながら実践している。	人生の先輩としての利用者の尊厳を守り、出来ないことをそれとなくフォローするという立場で利用者を支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行う行事に、地域の方々に来て頂き、交流の場を設けている。	地元の白岩小学校とは運動会・発表会・雪かきなどで連携している。夏祭り等の行事には近隣からボランティアが参加し、わらび座はじめ各種団体がボランティアとして日常的に訪問して利用者で交流している。認知症デイサービスも開設され、地域の福祉拠点となっている。	各ユニットに看護師が配置されているので地域住民の健康チェック等を通じて地域にサービスを還元しながら、福祉拠点としてさらに進化することを期待したい。	
			夏祭りや避難訓練等の事業所行事には、地域の方々がボランティアとして参加して下さい、利用者が小学校の運動会や発表会に出かけるなど、地域と交流が図られている。			
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	2か月毎の運営推進会議の中で話し合っている。また、認知症何でも相談所として、窓口を設けている(広報などで伝達)認知症サポーターとしても活動をしている。			
			認知症なんでも相談所の開設。 認知症サポーターとして、地域の方々へ認知症を理解してもらえよう活動している。又運営推進会議時、情報交換しながら伝えている。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーに家族代表が入り、意見交換等を行い、サービス向上に活かされている。	事業所での日頃の活動研修報告や毎回課題を設けて、委員の皆様から意見、要望を求め、サービスの向上、事業所運営に反映させている。	年6回定期的に開催、利用者も体調の良いときには参加している。施設近況報告のほかに、震災後の被災地支援報告、認知症グループホーム協会での実践報告の紹介などを議題に、広く意見を求め、支援に活かしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村行政に限らず、市立病院や個人医との医療連携や、消防署との防災訓練等で、意見交換したり、指導を受ける事で、協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が毎回出席していただき、施設利用状況やサービスの取り組みを伝え医療機関や消防署とも協力体制を確立している。	施設長が地域の防犯協会事務局長として巡回・声かけなどに参加している外、認知症なんでも相談所への小さな相談は数知れず、私立病院・精神科医との連携・地域包括支援センターへの講師派遣・キャラバンメイトの取り組み等でも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令順守をモットーに「身体拘束マニュアル」を作成し、社内研修で職員全員が正しい理解の上でケアに取り組んでいる。	身体拘束について研修会に参加し、又職員全員で社内研修をしながら理解を深めている。利用者の行動、言動を理解するとともに身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について運営規定に明示され契約書で家族にも了承されている。玄関のセンサーによって外出する利用者の安全を見守る等しており、これまでに拘束の事例はない。身体拘束廃止委員会を設置して、法令を順守し、身体拘束をしないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、全体会議の中で取り上げ、職員の意識を確認したり、一人で悩んだり、ストレスをためない様に、毎回の業務の中で意見交換を行っている。	/	/
			外部、社内研修にて学び理解を深めている。職員一人一人言動、行動等に気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター開催の研修に参加したり、全体会議や運営推進会議の中で取り上げ理解を深めている。	/	/
			外部、社内研修にて学び理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時パンフレット及び運営規程、重要事項の説明書等、照らし合わせながら説明の上、契約もお互いに確認し承諾書を頂いている。	/	/
			入居、退去の際は、家族、利用者の話を良く聞き、十分に説明し納得、承諾を得た上で契約、解除を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情申し込み先として、当ホーム(意見箱)以外に、介護保険事務所、包括支援センター、国保連の三か所に対応し運営に反映させています。	職員の明るさ、真摯な態度など利用者家族から好感を持たれている。家族会の設立については引き続き検討し、アンケート調査によって足がかりを作ろうとしている。毎月一回家族と連絡帳を交換してその意見を汲むことに努めている。	家族会の設立に向けて引き続き検討され、アンケート調査実施によって前に進むことを期待したい。	
			意見箱を設置すると共に毎月の連絡帳、家族面会時に担当職員が生活状況を報告し意見や要望を確認している。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議での職員からの活発な意見交換が交わされ他入退居可否等についても審査委員会等で話し合い反映されている。	1・2号館それぞれの管理者のリーダーシップのもと、利用者のニーズを最優先にして各ユニット独自の運営がなされている。ユニット会議や全体会議で職員の意見を汲み取り、入退についても審査委員会で話し合っている。積極的な研修派遣により、職員一人ひとりの自覚と質を高めている。		
			日常的に連絡ノート、全体会議等で、一人ひとりの意見や提案を聞き運営やケアに反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇進、昇給制度、研修制度等に対応している。			
			職員全体が働きやすい職場環境を作る事により、職員が個々の能力を発揮できるよう取り組んでいる。			



自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内外等に、積極的に研修に参加し、レベルアップを図っている。また、資格取得による手当支給など、職員の意欲向上につなげている。		/	/
			外部研修への参加、研修の内容について参加した職員が全体会議を通じて他の職員にも伝達している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡協議会に加入し、管理者が役員を務めるなど、同業者間の交流に積極的に関わっており、研修会や勉強会に参加している。又、職員も人数に分かれて、他事業所へ訪問し、お互いのケアの内容を参考にするなどサービスの向上につなげている。		/	/
			研修等に参加し、情報交換等行い、サービスの質の向上に努めている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に調査で本人や家族との相談を聞く機会も持っている。日常的な会話の中から本人の思いや求めている事を、汲み取れるような対応をしている。		/	/
			訪問調査や施設見学等をして頂き十分相談に応じ、安心納得できる調整関係に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する家族の立場になって、相談しやすい雰囲気や場を作ったり、前もってホームへ見学に来てもらったりしている。		/	/
			上記同様			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている <b>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする</b>	/		/	/
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでは皆が家族、娘であり嫁でもいい、お互いに何でも話せる仲になり、場になっている。お茶時には皆で話がはずみます。		/	/
			調理の仕方や畑作りなど、利用者の培ってきた経験から職員が学び、そこから信頼関係を築き、日常生活の支援に活かしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との報告、連絡、相談はもちろん一緒に考え、時々助言したり、お互いに支え合える関係作りに努めている。 又、なかなか面会に来れない家族に電話等で連絡を密に取っている。		/	/
			毎月、連絡帳や施設通信を送り、本人の様子を伝えている。施設の行事にもお声をかけ、利用者の方と共に参加して頂き家族との交流を図り、絆を大切にしている。			



自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで通っていた病院や美容院等、馴染みの人や場所に可能な限り支援している。	本人の気分転換に、自宅や馴染みの人や場所までドライブに行き、安心して頂くよう、又、関係が途切れないよう、支援している。	かかり付け医や理・美容院との連携が途切れないように支援している。読書や俳句を楽しむ利用者を側面から支援したり、家族への電話かけや、面会時の話題の仲介、敬老会出席への支援など、積極的に行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を理解し、それぞれの話を良く聞き、平等に声かけし、レクレーションや仕事の振り分け、その場の雰囲気作りに気を配り良い関係を築く事に努めている。	利用者同士が円滑にコミュニケーションが図れるよう環境を整え共同作業時もお互い協力し合いながら輪を深め職員が温かく声かけ、見守りしながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの便り等で定期的連絡を取っている。	他施設へ入所した方に、退所後も様子を伺いに面会に行ったり、ご家族の相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とゆっくり時間を取り思いや悩み相談に対応している。夜勤時にも、可能な限り対応している。	職員の夜勤帯に趣味活動の支援をする中で、じっくり話し込んで利用者の思いに触れたりすることが多い。集団の中で個を生かすことの難しさを実感しながら、調理・畑作・掃除・洗濯などの日常を通じてその人らしさを把握している。		レクリエーションの一環として、当地の昔からの伝承遊びである「味噌売り」を取り入れており、利用者の楽しみとなることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、また苦労話からこれまでの暮らし方や気持ちを汲み取り、行きつけの美容室、馴染みの店や馴染みの人の居る所を利用するよう努めている。			
			利用者様とコミュニケーションを図り会話の中から聞いたり、ご家族様からも情報提供を頂き、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者と夜勤者との引き継時、現状の把握、報告、注意事項等に対応している。			
			日中、夜間共利用者様一人一人の状態を記録し、職員間で共有し把握に努めている。又、体調面も毎日バイタル測定、水分、食事摂取量も記録している。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の家族(来られない場合は意見書にて対応)利用者、看護師、職員全員とケアマネジャーと話し合いをしている。医療面については受診の時にドクターに相談をしたり意見を聞いて介護計画書を作成している。	利用者及び家族の意向を踏まえ、看護師、職員、計画作成担当者のそれぞれの視点から、気付きや意見を出し合いながら利用者様、本位の無理のない介護計画を作成している。		計画作成担当者を中心に利用者とその家族・全職員・ケアマネジャーのメンバーが意見を出し合い、介護計画を作成している。3～6ヶ月ごとに見直しを行い、利用者に無理のかからない計画となっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、連絡帳等で情報を共有し、日々のケアや介護計画に活かしている。	毎日、個別の介護記録や業務日誌に詳しく記録している。又職員間で、連絡ノートを活用し、確実に情報が伝わるよう共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる <b>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする</b>				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーは、民生委員、医療関係者、元教育関係者、利用者さんの家族、消防関係者がいる。又、施設長は防犯協会の事務局を担当し、地域と深く関わっている。	近隣にある小学校の行事に参加させて頂いたり、慰問に来て頂いたりと交流を図っている。又、避難訓練や夏祭りなどに地域の方々にも参加して頂くことにより、交流を深めより安全な暮らしができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>かかりつけ医は、月1回の割合で受診しており、往診してもらっている利用者もいる。 かかりつけ歯科医も、月1回定期的な定期的な往診があり、主に口腔ケアや義歯の調整してもらったり、必要に応じて通院し治療している。薬局についても、受診のたびに薬の指導等を受け</p> <p>市内の歯科医院、病院等と連携を図っている。又、ご家族の方の希望等汲み取り、それ以外の病院でも受診できるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医を中心に受診・往診等で協力関係を得ている。又かかりつけ歯科医によって毎月口腔ケアが行なわれている。各ユニットの看護師による健康管理で病気に早めに対応できている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>看護師にいつでも相談したり、指示をもらえる体制を取っている。 看護師が休みの日は、電話にて連絡や相談をしている。</p> <p>非常勤の看護師に利用者の日々の状態を報告している。相談、アドバイスを受けながら支援できる体制を整えている。</p>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>市立角館総合病院とその他個人医院と連携しており、入所者との契約では最長2カ月の入院まで(退所期限)安心してできるように配慮している。また、院内の医療連携室と密に相談し早期に退院できるよう努めている。</p> <p>入院先の医師や看護師と利用者の症状などの情報交換を行っている。入院中も家族と連絡を取り合っ安心して援助に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの指針を定め、同意をもらって共有している。	本人や家族の意向を汲み取りつつ、医師の意見や診断を元に、事務所として「できる事、できない事」をはっきり見極めケアのあり方について相談している。ご本人、ご家族の方が納得のできるよう話し合い、了解を得てケアを行っている。	これまで看取りのケースはなかったが、指針を定めており契約書によって家族の同意を得ている。職員の勤務体制・主治医との連携・地域とのかかわり・利用者の精神的なケアなど、職員と家族が話し合う体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命講習(応急救護等)を全職員が受講し、知識・技術を習得している。また、看護師や病院の指示を受けて対応している。	避難訓練の際に救命講習を受講しており、急変時に対応できるよう備えている。又、緊急時、火災発生時のマニュアルも作成し、職員全員把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上(夜間想定も含め)避難訓練を近隣住民と協力して行い、連絡体制も整えている。	年2回の防火避難訓練を行い、利用者、職員が全員参加で実施している。地域の方々からも協力を得ている。	年2回の避難訓練を行い、地域住民もしっかりメンバーに組み込んで毎回参加してもらっている。非常食を備蓄し、スプリンクラーを設置するなど災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>個人情報を研修等で使用する際は、事前に本人・家族の同意を得ている。日常のケアも利用者にできるだけ寄り添いながら、個々に合わせたケアを行っている。</p> <p>常に傾聴の姿勢になり、利用者の方の立場となった、声かけを心掛けている。</p>	<p>研修によって職員の質を高め、利用者の主体性の尊重を実践している。研修での個人情報の使用について利用者家族の同意を得ている。ファイルの表紙には名前を出さず、キャビネットに保管している。利用者に常に寄り添い、傾聴する姿勢を持って、支援に当たっている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>ホームの理念である「自立と相生」の、自立としての本人の思いや希望はできる限り支援している。</p> <p>利用者主体のケアができるよう、見守りや傾聴を行い利用者の方が、自己決定しやすい環境を作っている。</p>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>利用者のペースに合わせて、ゆったりとした日常生活を送ってもらっている。</p> <p>利用者の方に、自宅に居る時と同じように過ごして頂く事を念頭に希望があれば、それに応じた援助をしている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散髪や顔そり・染髪など、一人一人の希望を聞き、定期的に行っている。	本人の希望によっては、馴染みのある美容院へ行ったり、外出の際はアクセサリ等つけ、その方らしいおしゃれ等楽しめる様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好きな食べ物を聞いたり、好評だった料理は献立に加えている。 野菜の皮むきや食器拭きなど、一人一人の得意な事を見つけ、一緒に行っている。	利用者の方と共に食材の買い物へ出掛けたり、その方の得意としていた料理を職員も教わりながら作ったりし、援助をしている。 又、季節の物等、献立に取り入れている。	1・2号館別々の献立は毎月栄養士の指導を受け、バランスのとれたものとなっている。利用者が収穫した野菜も食卓に載せ、ことに2号館では全員が食事準備・後片付けに参加している。昼食はゆっくり時間をとり、和やかな時間帯となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下、摂取カロリーや栄養量を見ながら不足している栄養素は積極的に摂取するようにしている。また、十分に水分が取れるように、好みや状態に合わせて工夫して摂取してもらっている。	一人一人の1日の水分、食事の摂取量はチェック表や記録に記入し把握している。又、栄養士から食事や栄養状態についてアドバイスを頂く事により見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>かかりつけ歯科医による月1回の往診があり、口腔内の状態や義歯の調子を診てもらい、指導や指示を受け、毎食後の口腔ケアに取り入れている。</p> <p>毎食後、起床後の口腔ケアの支援をしている。又、月に一回の歯科医院往診の際、助言を頂いている。</p>	/	/
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>利用者の排泄パターン(行動サイン)を見逃さないように援助している。</p> <p>利用者の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した誘導、声かけ介助を行っている。</p>		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>食物繊維を含む野菜を多く献立に取り入れ、水分補給と適度な運動を促して援助している。</p> <p>毎日、排便チェックを行っている。食事の献立に、食物繊維の摂取、水分補給にも配慮している。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴(必ず入浴してもらいたい日)の他、一人ひとりの希望や発汗等の状態に合わせて入浴の援助をしている。	週2回の入浴以外にも利用者の希望・状況に合わせて入浴し、清拭・足浴も加えて清潔保持に努めている。1号館ではシャワードバスを設置している。職員と1対1でゆっくり安全に！を心がけている。近隣の温泉にも出かけ、入浴を楽しんでいる。		
			週2回の入浴を基本としているが状態に合わせて柔軟に援助している。利用者、職員一対一の介助入浴によりゆっくりとした時間が保たれる。又、足浴、清拭、衣類交換の援助も行い、清潔保持に努めている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた援助をしている。また、適度な運動などの日中の活動を取り入れ安眠へつなげている。			
			利用者一人一人の生活パターンを把握しながら、夜間よく眠れるように、日中活動援助に努めている。又、ケースに応じて環境整備を行うなどし安心できる支援に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人の服薬量や種類が多く、管理には細心の注意を払って服薬支援を行っている。また、副作用などの症状や変化の確認を注意深く行うよう努めている。			
			薬の内容や効果、副作用、用法、用量などいつでも確認できる様にしている。飲み忘れがないよう確実に飲み込むまで確認している。必要な時には主治医、薬局、ホームの看護師に相談確認している。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や畑仕事、掃除、食事支援、買い物、家族との交流など、利用者に合わせて援助している。また、カラオケを設備しており、皆で楽しめるようにしている。			
			季節を感じられる 外出、ドライブ、行事、食材の買い出し、畑などを通し生活歴や力を活かした気晴らしの支援ができるよう努めている。利用者への嗜好品提供にも努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している <b>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</b>	散歩や買い物の支援や自宅へ行きたい時に連れて行くなどの支援をしている。また、ご近所の人と山菜を採りに出かけたり、床屋さんからは車で送ってもらうなど、協力を頂いている。	利用者の外出希望はドライブ・買い物・散歩とさまざまだが、なるべく利用者の「行きたい時」を尊重しようとしている。空き家になっている自宅周辺へのドライブ・住民の声かけによる山菜取り・内陸線に乗っての紅葉見物等々のほかに、日用品やお菓子を買うなど、職員付き添いのもとお金を使用して買い物を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を大切に所持したり使えるように、見守るなどの支援をしている。本人がどうしたいのか希望を取り入れ、買い物に行きたい時や欲しい物がある時に支援している。			
			出掛ける時は本人の希望に応じ本人より預かっているお金より、お小遣いとして高額にならない程度手渡しし、買い物を楽しんでもらえるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所前カウンターに電話があり、誰でも自由に使用できるように支援している。 手紙やはがきも、時には代筆したり、届いた物を読み聞かせるなどして、大切な人との関係を続けられるよう支援している。			
			家族との電話の取次ぎや、本人の希望があればいつでも、職員の見守りの中、対応させて頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の設備には「自動換気システム」が全室にあり、随時作動して空気を入れ換えしている。 南向きの住宅となっており、窓からは自然の採光と季節感のある樹木に囲まれている。また、ホーム裏にはウッドデッキがあり、居心地の良い空間を提供できるよう工夫している。	ホーム内は自動換気システムにより、さわやかな環境が整っている。畳スペース・椅子スペース・ソファなどめいめいがゆったり過ごすことができ、採光も十分である。和調のタペストリーや利用者による貼り絵や俳句などの掲示物も心を和ませてくれる。		
			テーブルや畳のスペースのほか、ソファを設置して利用者が自由に過ごせるよう配慮している。又、事務所内は清潔で明るく自動換気システムにより不快な臭いを解消するなど、快適な居住空間を整えている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている <b>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</b>	ホールにはテレビがあり、畳の上やソファで好きな時に好きなように利用し、交流したり思い思いに過ごせるようになっている。			
			ホールに本や雑誌を置いて読んで頂き、利用者の余暇活動に活用して頂いている。時には、利用者同士でお互いの自室にて談話している。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が長年自宅などで使用していた物(タンス・椅子など)をホームに持ち込んで使用し、自宅で過ごしているような居室作りをしている。また、思い出の物を飾ったり愛着のある物を置き、心安らげるようにしている。	当ホームには3タイプの部屋があり、家具類は持込であり、各窓からは豊かな自然が飛び込んでくる。窓辺の棚の設置などに建物への配慮を感じることができる。壁に思い思いの写真を貼ったりして利用者一人ひとりの個性を感じることができる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や各要所に手すりを設置し安全に生活できるように工夫している。 居室の前には自分の名前や写真を、自分で確認できる高さに貼っている他、トイレなど利用する場所にも、目の高さに合わせ張り紙で表示している。			
			家事等に参加して頂く事により、本人の自信につなげ、また、自分の居室等、わかるように工夫し、安心して自立した、生活が過ごせるよう支援している。			